報徳@なう
発行人：本岡俊郎

「時代の最先端」

友人に今のフードバンクの仕事を話す機会があった。彼は「時代の最先端の仕事ですね。」と誉め言葉か何かわからない事を言った。普通なら時代の最先端とは、ITとかDXとか横文字の世界の話かと思うけれど、彼は世の中の変化を真っ先に感じ取る「最先端」の仕事だと言ってくれたのだ。

今年も新年度に入った。コロナ禍の影響はほとんど無くなった。もちろん取り残されている人はいるけれど、コロナ禍で食品を求める強い空気は薄れた。この3年間我々NPO法人がずいぶん助けていただいたコロナ禍対応の助成金の公募も減った。一方で、食品価格の高騰で生活が圧迫されている方達からの助けを求める空気はどんどん強くなっている。具体的な数字でつかんでいるのではなく、毎日いろいろな方を支援しているとわかってくる。また、障がいのために生きて行くのが難しい方達への支援の機会も増えてきた。というよりも、コロナ禍対策に追われていた時には気が付かなかっただけなのだ。

群馬県や静岡県の外国人困窮者への支援も続けているけれど、支援のニーズはコロナ禍が終息しても変わらず強い。彼等の生活状態のレベルが日本人のそれよりも数段低いところにあるのがわかってくる。ある珈琲製造会社の提供品は、小田原地区ではせいぜい百五十ケースもあれば足りるが、群馬県の外国人支援団体は毎月四百ケース以上を引き取って行く。それだけ配る先があるのだ。

また、少ない年金で暮らす高齢者の質素な暮らしの実情も浮かびあがって来た。なかなか配る体制が整う団地や自治会と手を組むのは難しいが、一度配布会を行うと必ず次回は何時やるの？と期待される。お年寄りを援けましょうという世間の空気は、まず感じられない。日本の未来を支える子供達への支援はあふれているけれど、それだけで良いのか？今の日本を作り上げたお年寄りへの感謝の心を込めた支援を前向きに進めて行きたい。



行政は新しい事には及び腰だから、民間の我々NPOが先頭に立ちたい。

コロナ禍の時は、助けなければいけない対象がはっきり見えていた。しかしポストコロナの今、助ける対象は様々で多岐にわたる。多くの事は出来ないけれど、ひとつひとつ丁寧に対応して、パソコンではまず見つけられない新しい変化をつかむ感覚を忘れないようにしたい。

東京都からの「うちさぽ」プレゼント

今年三月コロナ禍終息に伴い。東京都が準備していた「コロナ感染者向け非常食品」を放出するという情報を得ました。「うちさぽ」すなわち「おうちでサポート」という名前がついています。この「うちさぽ」は、感染して自宅待機になった方に一セット届けられていました。一セットで二箱あって、パックご飯やレトルトカレー、水など合計で約十八kgになります。

情報をくれた運送業者の方の話では、なんと三十万セット(六十万箱)あるとの事。いまだにこの数字が本当だったかはわかりませんが。とにかく膨大な量が余った事は間違いありません。三月時点では。東京都下の福祉施設やフードバンクには無料で配送する条件だったので、報徳食品支援センターは、十トン車一台分を手当しました。幸い運送料は農水省の助成金を充てる事ができました。十トン車一台で運べる量は、四百

セット（八百箱）約八トンになります。届いて中身を見ますと、いずれも一流メーカーの品物ばかりで、さすがに東京都だと感心しました。そして早速ひとり親会の配布会などで配りはじめました。

東京都下だけ無料配送では消化できなかったのでしょう。その後、無料配送地域は関東地方一都六県に拡大されました。良いチャンスだと、日頃からお付き合いしているフードバンクや配布団体にもこの情報をつたえました。四月末時点で、報徳食品支援センターは五月連休明けに再度四百セット、群馬県の外国人支援団体に千二百セット、埼玉県にあるベトナム人労働者を支援するお寺に六百セットを手配する事ができました。静岡県の外国人団体も独自で申し込みました。日頃支援食品をなかなか入手できない団体にとってビッグなプレゼントになりました。

その後のニュースでは、大阪府や三重県等各県でも放出が始まっているようです。ちなみに、神奈川県はどうしたのか？神奈川県は、コロナ感染者で自宅待機になった方には、県が給食会社と契約して「食事」を届ける体制を採ったので、このような食品の提供はしなかったそうです。

四月下旬、東京都福祉保健局の担当者と話しましたが、無料提供先を一都六県に拡大した効果は大きくて、全部放出出来る見通しが立ったとのことでした。



東京都　うちさぽセット

「めだか米」のご提供

三月に、ウエインズトヨタ神奈川様からお米を1トンいただきました。

《WEINS》は、横浜トヨペット、トヨタカローラ神奈川、ネッツトヨタの3社が統合してできた会社です。

桑原めだか米とは、

「めだかの学校」の由来ともなった、桑原・鬼柳地区は酒匂川を水源としており、神奈川県唯一、絶滅危惧種に指定されている在来めだかの生息地です。そのようなきれいな川を栄養源にして育てられたのが「桑原めだか米」となります。

WEINSさんは、社会貢献のため、絶滅危惧種の保全活動団体を応援し、また田植えなどの原体験をとおして、子どもたちの学びの機会を提供しています。当センターの活動をとおして子供の居場所つくりのお手伝いをしていただけることとなり、また中心的な栽培農家が桑原の山田さん、センター近くで活動をしています。

これから秋にかけて寄付をいただける米が足りなくなるので、とてもありがたいです。また当センターでは、キューピーたまご財団からいただいた助成金でお米専用の冷蔵保管庫を購入しました。30キロ入り袋を27個保管できます。これで暑い夏にお米に虫がつく心配から解放されました。🙌



編集後記

長い連休になり、発行は遅れましたことお詫び申し上げます。

会員様にご連絡

五月二十八日・第五回年次総会をおこないます。終了後、会員の皆様には「報徳＠なう」にて事業報告をさせていただきます。